

# 高山

たかやま  
高山の原生林を守る会

会報 第 115 号  
2020年 12月



## 観察会(信夫山、201123)と私 丹治 芳廣

高山の原生林を守る会の活動に、今年の5月から参加して、3回目の観察会になりました。観察会の雰囲気には慣れましたが、そこで交わされる植物に関する情報量の多さにまだ慣れることは出来ずに、頭の中を情報がオーバーフローする感覚がいつも残ります。

今回の信夫山の観察会で強く感じたことは、常緑広葉樹の存在と観察会のエリアが人家に近く、歴史的な人と関わる情報が多くあった事です。

登り始めは、公園内で整備された大谷石と思われる石が敷かれた道を歩く、人工的な環境からの出発になりました。

その登り始めで、シラカシの説明がありました。私の山歩きの感覚(ほとんど福島県内か隣県しか歩かない)では、高木の常緑広葉樹のイメージはほとんど無く、シラカシはその存在を強く意識させるものとなりました。樹木辞典を調べると、仲間にウラジロガシ、アラカシ、アカガシ等があり、かなりの種が宮城県以南に植生しており、観察会パンフレットの最後にある照葉樹林帯北端の位置づけを強く意識することが出来ました。(ネットを引くと照葉樹林文化やナラ林文化を説明するものがあり奥深さを感じました。)

もう一つ常緑樹として、チャノキが印象に残りました。チャノキには可愛らしい花が付き、葉は「葉脈に沿って窪み、脈間は上面に丸く盛り上がる」



趣があった羽山南道  
(2019年6月24日)



道路拡張後の羽山南道:趣は失われ、落石の危険性が高まりました



チャノキ



シラカシ

と表現されるような、艶、柔らかささと豊かさを感じさせるものと思いました。このチャノキは、熊野神社の門前集落らしい六供集落の周辺にあり、人との関係性の中で

**風致保安林・土砂崩壊防備保安林**  
福島市御山字信夫山地区内 ほか

風致保安林とは  
名所や旧跡、趣のある景色などを保存します。

土砂崩壊防備保安林とは  
山崩れを防ぎ、住宅や道路などを守ります。

注意事項  
この森林内で立木の伐採、落葉・落枝の採取、土地の形質の変更(建築物設置含む)等をするときは、知事の許可を受けなければなりません。お問い合わせは、福島県北農林事務所へ。

福島県

羽山南道の入り口と出口に設置されているのは皮肉でしょうか

チャノキが維持されてきたとの話が印象に残りました。

最後に一言。私にとって、高山の原生林を守る会の活動に参加することは、日常の介護を主とする生活時間から、まるで違う活動時間となる貴重な時間帯になっています。そこで語られる言葉、贈られる物、そして贈られる気づかい、心地良いものです。今後ともよろしくお祈いします。



## 半田山散策を終えて 岸波 良子



第 172 回自然観察会：半田山の自然林観察会

半田沼周辺は満開の桜やシラネアオイが群生する時期に家族、友人たちと散策した経験はありましたが、「半田山」を登るといふ経験ははじめてでした。初めてだから好奇心が先に立ち急こう配があるなんて想定もせずワクワクして夫婦で参加させていただきました。

初秋の半田山は登り始めたところから見慣れない植物が次々に花を咲かせていて、代表さんが手作りされたしおりに掲載された草花たちが出迎えてくれました。それもそのはず、前の週に半田山を下見して作ってくださったしおりと開いて、カラー刷りの植物の写真と共にコメントがありその細やかな気配りに感動でした。

代表さんはじめ参加された会員の皆さんは山歩き慣れている方々で、植物の名前もパパッと出てくるのには驚きでした。また、記録まで取って学習されている方もおられて、その山を登りきる事だけが目的だった今までの山登りを見直すきっかけになりました。今回の散策はのんびり、ゆったり草花を見て触れて、山のおいをかいで登りつめることができました。

ところどころ、傾斜が急なところもあり、にわか山登りの私にとって少々きつい所もありましたが、根性で登り切り、山頂で食べたお弁当の味は格別でした。会員の皆さんからいただいたキノコやゼンマイの煮つけ、イチジクの甘煮、ゼリーなどをごちそうになり、身も心も大満足でした。

自己紹介もそこそこに皆さんを押しつけて代表さんの後ろをついて歩いたご無礼をお許しください。心地よい疲労感と共に岐路につき夫婦の会話も盛り上がりました。半田山の自然環境がこんなにも豊かであること、灯台下陰だったことを再度確認した散策でした。今後も皆様の仲間に入れていただけたらありがたいです。

自然を散策することで人と人との交流も増え知らず知らずのうちに深めていくことを知る機会でした。ありがとうございました(市内大森在住)。



半田沼



カエデハムシの逸品



クサボタン



シオガマギク



テンニンソウ



ナガミノツルキケマン

## 身体のものさし3 ～視ることと立位姿勢～ 土井 昇

眼の問題は5回に分けて話します。

赤ちゃんのハイハイの視野は眼と鼻の先から這える範囲までだが、身体を反らす準備が整うと立位へと移行する。彼の視野は格段に広がり、今までの空間よりずっと遠くまで続く世界に驚く。歩みを進めて様々な物事に会い、世界の大きさを知ることで自分のサイズも解り、周りとの関係を作り始める。多くの場合、こうして地塁で歩行することが成長を支えていく。

この立位に働く起立筋系統は経路では主に膀胱系が担う。眼の内角から頭上を回り脊椎の両側を下って骨盤の中央を支え、下肢後面の膝裏中央を貫いてふくらはぎ下部からは小趾外側に終わる。背面から身体を起して行動を支える他にも、内臓の排泄のための収縮(いきむなど)に働き、更に自律神経にも強く関わる。

これに加え、眼のトラブルを訴える人の多くは、胆経も関係する。眉の中央と眼尻から頭の外側とこめかみを通して眉甲骨を一周して中指先まで。また、脇腹を下り、下肢外側を通して4～5趾間に伸びて4趾つま先で終わる。右眼が開きにくく涙が詰まって化膿した人が眼科で穴をあける治療を施されたが痛いのみで改善しない。手術といわれて相談があった。不安のため身体全体が強張っていたが、胆経の力が虚(不足)したためと判って、顔を調べてみた。すると左頬骨が鼻に向かって内方へ沈み込み、そのしわ寄せで右頬骨が鼻に対して切り立ったように高くなっている。一番影響を与えている場所(原因)を肋骨・骨盤との関連で右足の4～5趾間と特定した。じつと愉氣していると眼の上の筋肉に張りが出て、少し眼があいてきた。左頬骨の沈み込みも弛んで外(耳)方への動きも出てくると、右頬骨の高まりも平らになってきた。全身の胆経をゆっくり手当てした後はさらに改善したので、眼をあけてもらおうと「あきます」と笑む。

足の外側の骨を「こむら」ともい。支柱である脛骨(すね)に対してクッション機能が主で、その弾力低下が進行したための眼のトラブルだった。プレートテクトニクス様の頬骨の動きといい、起立筋由来の眼瞼を挙げる筋の働きなど、視ることを全身が支える姿を垣間見ることができた。立つこと、歩くことが眼を開く力の基になっている。



視る(マタアトランティカ)

高山の原生林を守る会 2020年定期総会報告

2020年11月23日(月) 午後13:00～16:00

市民会館404号室

### 2020年活動報告

月 日	内 容	参加人数
11月24日(日)	第167回大森城山自然林陽だまり観察会と総会	11名
2月12日(水)	吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する検討会	2名
2月18日(火)	信夫山研究会講演	1名
2月20日(木)	高湯太陽光発電所説明会	1名
2月24日(日)	第168回仁田沼雪上観察会	16名
4月12日(日)	第169回小鳥の森スプリングエフェメラル観察会	12名
5月3日(日)	第170回石田ブヨメキ湿原の植物観察会	中止
5月24日(日)	花塚山登山道放射線量調査	5名
6月8日(月)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	2名 +10名
6月12日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	4名 +6名
7月5日(日)	第171回姥ヶ原の高原植物観察会	20名
9月14日(月)	霊山登山道放射線量調査	5名
10月4日(日)	第172回半田山紅葉観察会	19名
10月18日(日)	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	6名
11月8日(日)	野手上山・虎捕山登山道放射線量調査	4名
11月23日(月)	第173回信夫山陽だまり観察会と総会	17名

2020年 高山の原生林を守る会 決算書

収入 (単位 円)			支出 (単位 円)		
科目	決算額	摘要	科目	決算額	摘要
前期繰越金	136,907		会議費	1,440	福島市民会館使用料
年会費	41,000	1000円×41名(会員数56名)	郵送費	12,334	会報 (No 111~No114)
観察会参加費	38,500	500円×77名	観察会経費	0	
保険金差額繰入金	25,788	前払い金と実績申告の差額	交通費	9,000	観察会車代
雑収入	1,100	忘年会残金	保険代	32,470	三井住友海上火災120人分(含手数料)
合計	243,295		HP利用料	4,230	HPプロバイダー料 (含手数料)
			印刷費	22,329	会報、資料等印刷経費
			雑費	9,758	西吾妻ロープ設置資材等
			予備費	0	
			合計	91,561	

収入 243,295  
 支出 91,561  
 差引残高 151,734

収支差引残金 151,734円は次に繰り越すものとする。

2020年11月23日

2021年活動計画

観察会、登山道保全活動、阿武隈山地の放射線量調査を事業の3本柱とします。

(1) 自然観察会 (2021年の計画は8ページをご覧ください)

自然観察会は会の中核となる事業です。高山スキー場問題が一段落した後に、山岳自然林の生物多様性の豊かさについて触れていただくことで、多くの方々に山岳の自然保護の大切さについて理解を深めていただくことを目的として観察会に取り組むことになりました。

もともと、自然保護活動家ではない登山愛好家が集まって取り組んできましたので、当会の観察会は試行錯誤を繰り返して積み上げてきたものです。専門家不在のアマチュアによる観察会が当会の持ち味といえます。感動や発見を共有することで、参加者全員で当会の観察会は作り上げられてきました。

今年は新型コロナ感染症流行に見舞われ、観察会のあり方に疑問の声もありましたが、現在では、野外活動に対する理解が広がっております。下見の実施や保険等、これまで実施してきた安全対策に新型コロナ感染対策を加え、観察会の安全性と内容の一層の充実化を図っていきます。

また、当会の観察会に対する参加者の多様な期待に対応するため、幹事は会員の意見を聞き取り、観察会運営に反映していきます。

- 移動時の「三密」回避策として参加者の事前連絡による現地への直接集合を併用します。
- 冬の観察会は雪道の移動が解消された場所と時期に実施することを原則とします。
- 観察会受付時、体温計測し記録する。

(2) 山形と共同の西吾妻の登山道保全ボランティアについて(2021年の計画は8ページをご覧ください)

- ロープ設置作業の一般公募を継続する。公募は天元台側とデコ平側に分けて募集する。
- ロープ取り下げ作業はゴンドラを利用する。ゴンドラ代は全額参加者負担とする。
- 受付時、体温計測し記録する。

(3) 山岳の放射線量調査

2011年より継続している霊山、花塚山、虎捕山、野手上山の放射能汚染調査を実施する。

(4) 西吾妻山域登山道保全管理に関する検討会の設置にむけた活動

西吾妻山域登山道保全管理に関する検討会設置について置賜森林管理署、環境省裏磐梯自然保護官事務所、NF米沢との連携を図る。また、福島県へも働きかける。

新規役員

代表 佐藤 守 事務局長 奥田 博  
 会計 青柳静子、渡邊アヤ子 会計監査 山口 崇  
 幹事 青柳静子、五十嵐礼子、奥田博、佐藤守、松井さき子、渡邊アヤ子、渡辺京子  
 会報/HP 佐藤 守  
 (退任された小幡仁子さん、佐藤清子さんには、長い間大変お世話になりました)

私が二度目に尾瀬を訪れたのは昭和44年のことで、その時はひとり旅だった。

朝出発しようと小屋を出ると、濃い霧で辺り一面真っ白一寸先も見えない。戸惑う私を見た小屋の人が、船を出すから一緒に乗って行けと声をかけてくれた。ここは渡りに船とばかり言葉に甘えて乗り込むと、船は濃い乳白色の霧に包まれて、静謐神秘的な尾瀬沼の船着場を静かに滑り出した。当然沼も霧に隠されホワイトアウト、燧ヶ岳は勿論のこと何も見えない。船は二度ほど岸に寄せ目的地を探りながら進み沼尻に到着した。上陸後は徐々に霧も晴れ周囲の景色が次々と現れだす。程なくして尾瀬沼に別れを告げ、湿原の木道をノンビリと至仏山を眺めながら歩いた後、続く登山道を下つてもうひと汗かくと、大きな水の流れる音が聞こえてきた。平滑ノ滝だ。そこでは大量の水が大喜びしているかのように飛び跳ね踊りながら、長さ400mの一枚岩の巨大な滑り台の上を滑り落ちている。その姿は優雅で美しく躍動感にあふれていて、見ている者の心を惹きつけて離さない。そして三条ノ滝、この滝の圧巻は何と言ってもその水量、尾瀬ヶ原の水がすべて干上がってしまうのではないかと思うほどの大量の水が、100メートル近い落差を一気に垂直に落下し、その轟音と水煙は凄まじく、ここでも時を忘れて見惚れてしまう。

いつまでもこの感動に浸っていたいのだがそうはいかない。二つの滝に心を残しつつ湿原の木道がまっすぐ続く登山道を、また黙々と歩き始めてからどれくらい来ただろうか、行く先の木道の上に黒い色をした大嫌いな奴が、とぐろを巻いて昼寝をしているのに出くわした。太いミミズよりはだいぶ大きいはまだ子供のような。私の体から血の気が一斉に引いた、さてどうしよう後ろを向いてあいつを見ないようにして思案する。このまま今来た道を引き返そうか、それとも少し戻り湿原の別の道を行って、大廻りに迂回しようかと迷った末、とりあえず周りに人は誰もいない、まずは奴に背を向け見ないようにしながら寝ている木道のこちら側の端で両腕を挙げながら何回も何回も「ウワァーッ」と大声で叫び、登山靴で飛び跳ね木道に振動を与えてみた。そしてそうと振り返ると奴はいない、今だ！この間にと薄目を開けて、また「ウワァーッ」と声を限りの大声で叫びながら木道を走り過ぎた。そんなこんなでビクビクしながら、どうにか今日の宿泊地御池小屋にたどり着くことができた。気がつけば三条の滝からここまでだれ一人とも出会わなかった。

小屋の近くを流れる川の音に誘われて河原へ出て、岩に腰かけ川風に気持ちよく吹かれていると、こちらの川畔から対岸に向かって石を投げていた少年が近づいてきて「今日ここに泊まるの？」と私に聞いてきた。私は「うん」と素っ気なく答えて「君も泊まるのかい」と聞き返すと「あそこはお父さんがやってるんだ」とやっぱり素っ気なく答えた。夏休みの間父親のいる山小屋へ来ているらしい。「いいなあ、こんな涼しいところで、お父さんと一緒に居られるなんて」と言うと、彼は「うん、でももうすぐこの近くに大きな道路ができて、うちに登山の人來なくなるんだって」と屈託なく話して、少年はまた小石を対岸に向かって投げ始めた。「どこを狙って投げてると」と、私も小石を持ちながら尋ねると、少年は「あそこにカエルがいるだろう」と指さした。見ると大きな（ガマ？）カエルが対岸の岩陰に蹲るようになってじっとしている。「おい当たったらガマペチャンコにつぶれちゃうよ、もしつぶれなくてもアイツ傷ついて痛い痛いと言いながらこれから生きていかなきゃならないぞ、可哀そうだよ」と言うと、お客さんの言うことは聞かなくてはとも思っただのか石をぶつけるのをやめて、今度は私と一緒に流れの静かな瀬に向かって水きり競争を始めた。

翌朝少年に見送られ山小屋を出て、相変わらずひと気のない静かな道を行くと、数軒の家々が立ち並ぶ静かな集落に入った。そこで一軒の家の縁側に腰かけたおじいさんから声をかけられ、招かれるままに縁先に並んで腰かけると、どこから歩いてきたと問われ「尾瀬から下りてきた」と答えると、「この道は会津駒の登山者がほとんどで、尾瀬の人はあまり使わない」と言った。「途中でへびに出くわし往生した」と話すと、「あそこはへびの名所だ」と笑いながら教えてくれ、それからここでも工事中新設道路の話題になり、「これから部落はどうなるものか」と老人は独り言のようにつぶやいた。どうやらこの道路建設は集落や周辺の人々の心を翻弄しているらしい。この後の予定を聞かれたので、私は銀山湖を観光船で渡りダム観光をして、シルバーライン（長いトンネル道路）をバスで抜けて小出に出ると答えて別れた。



尾瀬沼から燧ヶ岳（イラスト 長岡由江）

# 東北ブナ紀行（75）

奥田 博

今を去る40年ほど前、船形山の宮城県側は大規模な伐採が行われていた。その頃に「船形山のブナを守る会」が設立されて情報を発信し始めた。世の中は白神山地の林道開削問題や北海道知床半島の原生林伐採問題と相前後していた時期だった。あの頃の活動により、原生林の伐採は少なくなったが、実は現在も伐採は静かに続けられている。

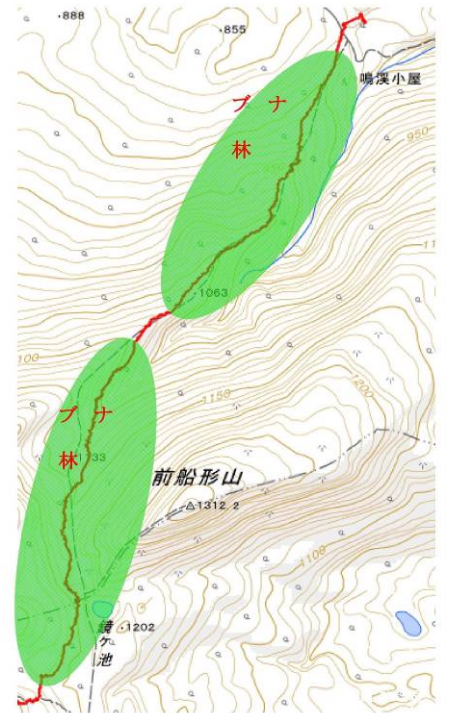
## 115) 前船形山 鳴溪コース 1312m



船形山を北から登るルートには、ブナが残されている。林道を登山口の鳴溪小屋まで入るが、それまでの林道走行では、伐採された風景を見ることができる。また張り巡らされた林道の多いことにも驚かされた。

登山口からは直ぐにブナ林の中を登っている。ブナの尾根通しを登るが、太いブナや変形したブナなどが楽しめる。沢に沿った道になれば、鏡ヶ池到着となる。神秘的とは言い難いが、静かな池だった。ここから前船形山は、直の距離だが、目ぼしいブナはない。

コースタイム: 登山口(2時間) 鏡ヶ池(30分) 前船形山



登山道では、ブナの根を踏み荒らしながら登る

## 116) 船形山 1500m 大滝キャンプ場～山頂～蛇ヶ岳～大滝キャンプ場

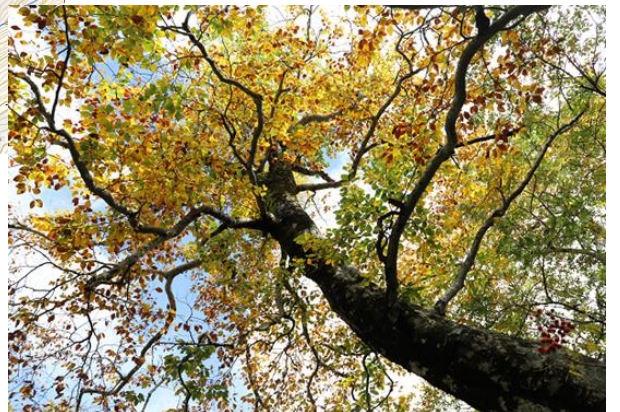


登山口となる大滝キャンプ場までは長い林道走行だが、この道路周辺こそ森林喪失の現場であり、原因となる道路。「船形山のブナを守る会」では年一回発行の会報「ブナの森」によれば1960～70年代の拡大造林全盛時に半分以上が伐採され、スギが植林されたという。しかし登山口となる大滝キャンプ場からは、見事なブナ林が残っており、当時の片鱗を垣間見ることが出来る。

登山口から船形山を目指して反時計回り

で歩き出す。実に素晴らしいブナの森で、この森は標高1300m、前項の前船形山の分岐上部まで続く。登山では、船形山山頂を経て、南に向けて展望の尾根を縦走し、蛇ヶ岳から尾根を離れ三光の宮まで周回する。三光の宮の標高が1200mで、ここから大滝キャンプ場までの下りがブナの見どころ。ジックリと堪能したい。

コースタイム: 大滝キャンプ場(1時間45分) 船形山(1時間) 蛇ヶ岳(1時間15分) 三光の宮(40分) 登山口



9月下旬、上部では紅葉が始まっていた

## 吾妻・安達太良花紀行 83

佐藤 守

マルバシモツケ (*Spiraea betulifolia* バラ科シモツケ属)

吾妻・安達太良連峰の偽高山帯の日当たりのよい岩礫地に植生する落葉低木。同属の樹木シモツケは吾妻・安達太良山系には植生しない。また、名前が紛らわしいシモツケソウは草本であり、シモツケ同様、吾妻・安達太良山系には分布しないが、シモツケソウと同属のオニシモツケが自生する。種小名の *betulifolia* は「カバノキ属 (*Betula*) のような葉の」という意味で、他のバラ科の樹木でも散見される種小名である。

葉は互生。葉柄を有する。葉身は倒卵～広卵形で、葉の先端は鈍頭で、基部は広くさび形で葉柄に流れる。表面は葉脈に沿ってくぼむ。葉縁下部は、ほぼ全縁であるが先端に行くにしたがって深い重鋸歯となる。鋸歯の先端は緑白色の腺点がある。葉面は両面とも無毛。葉の裏は淡緑色である。種小名が示すように葉形はカバノキ属のヤマハシノキやネコシデに似るが、形には変異が多い。

花は頂生、新梢の頂部に複散房花序を着生する。小花の花弁は 5、花色は白が多いが、桃色の個体も散見される。桃色の個体の花弁は花の基部ほど色が濃い。雄しべは多数あり、開花すると花糸が長く伸びる。葯は白い。雌しべは 5 心皮が離生し、5 本の花柱が花弁に沿うように広がる。小花が桃色の個体は、咲き始めは、雌しべや花糸も着色しているが開花後しばらくすると退色する。花の白い個体もよく見ると淡い桃色を残す小花も見られることから、花色は個体によって白から桃色まで連続的に変化するのかもしれない。5 個のガク裂片の先端はとがっているため、咲き始めの小花は 5 裂したガク裂片により中の花弁が星型に縁どられ、花序は星をちりばめたような姿を見せる。

長い樹林帯の登りに汗を絞られ、たどり着いた尾根の一角に咲く小さな花束群に癒された登山者は少なくないと思う。緩やかに伸びた雄しべで引き締まった花群をぼかした姿が、森林形成前の火山跡地の殺伐とした景觀に潤いをもたらし、偽高山帯の短い夏の主役であることを控えめに主張しているようだ。



### オニシモツケ (*Filipendula camtschatica* バラ科シモツケソウ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林の沢や湿原周辺の湿生地に植生する大型の多年草。シモツケではなくシモツケソウの仲間。シシウド、ハンゴンソウ、ヤグルマソウなどと同様に高茎草本群落を形成する。吾妻・安達太良連峰での植生域は他の高茎草本類と比較すると限られている。また、オニシモツケ群落にはマルバダケブキやオタカラコウ群落が隣接していることがある。

葉は互生。茎には稜があり、有毛。葉は頭大奇数羽状複葉である。側小葉は小さく目立たなく、また側小葉を欠く場合もあるため、頂小葉が葉柄の長い単葉にみえる。頂小葉は掌状葉で各裂片先端は尾状にとがり葉縁は重鋸歯を有する。葉脈は中肋の両側から鋸歯先端まで側脈が貫く。葉柄基部に耳状の托葉がある。

花は頂生。茎の先端に大型の散形花序を形成する。花序には毛が密生する。小花の花弁数は 5 が基本であるがまれに 4 花弁の小花も混じる。花弁は白色が基本であるが、個体により桃色まで色彩は多様で、多くはないが紅色の花も見られる。雄しべはマルバシモツケと同様に多数着生し、花糸は長く伸びる。雌しべは 5 心皮が離生する。柱頭は半透明である。桃色の個体は葯、花糸、柱頭、花柱ともに桃色を呈する。平開した花弁に光が反射し花序全体がハレーションを起こしたように煌めく。山でよく見かけるヒヨウモンチョウやコヒヨウモンの食草である。

オニシモツケは、バラ科でありながら葉や花の形態が本家の姿にすっきりと当てはまらず、家柄からも大きくかけ離れた体躯をし、ススキのような大柄の花でありながら光を駆使してその正体をつまびらかにせず、時として紅色の装いで見るものの度肝を抜く。その有様はまさに「傾奇者」ではないかと思う。



## 2021年自然観察会計画

回数	月日	曜日	候補地	テーマ	集合時間	解散時間	担当者
第174回	3/21	(日)	ブナっこ路雪上観察会 集合場所 四季の里正面入り口(あづま橋側)	雪上観察 (冬芽とフィールドサイン)	9:00	15:00	奥田 博
第175回	4/25	(日)	虎捕山・石田ブヨメキ湿原の植物観察会 集合場所 小鳥の森駐車場	スプリングエフェメラル観察	8:30	15:30	渡辺京子
第176回	5/5	(水)	半田山 集合場所 小鳥の森駐車場	スマレと春の林床植物観察	8:00	15:30	佐藤 守
第177回	7/4	(日)	ラクダ山の高原植物観察会 集合場所 四季の里正面入り口(あづま橋側)	夏の高山植物観察	8:00	16:30	青柳静子
第178回	9/26	(日)	二十日平紅葉観察と芋煮会 集合場所 四季の里正面入り口(あづま橋側)	紅葉観察と芋煮会	8:00	16:00	松井さき子・ 五十嵐礼子
第179回	11/21	(日)	高子二十境 陽だまり観察会 集合場所 小鳥の森駐車場	里山の陽だまり観察	8:30	12:00	渡邊アヤ子
総会			会場 福島市東部学習センター		13:00	16:00	

### 山形と共同の西吾妻の登山道保全ボランティア

月日	曜日	山域	作業内容	備考
6月15日	(火)	西大巔鞍部	誘導ロープ設置	一般公募
6月19日	(土)	天元台-西吾妻小屋		一般公募、NF米沢との共同開催
6月20日	(日)	(予備日)		
10月16日	(土)	西大巔-西吾妻小屋-天元台	誘導ロープ取下	一般公募、NF米沢との共同開催
10月17日	(日)	(予備日)		

### 第174回自然観察会案内：ブナっこ路雪上観察会

日時：2021年3月21日(日) 9:00~15:00

集合場所 四季の里正面入り口(あづま橋側) 集合時間 9:00 参加定員 20名

内容 野路温泉裏の冬のブナ林を散策し、フィールドサイン、冬芽等の春を待つ森の表情を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具(スノーシュー、カンジキ、スキー)

\*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用:保険代(500円)、申し込み:3月19日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時~9時でお願いします)。

### 2021年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日(曜日)	回数	自然観察会のテーマ	観察地(集合時間・場所)
1/17	日	361	冬の廻戸小屋 廻戸周辺(10時:湯夢プラザ)
2/14	日	362	雪の自然観察 雪国文化研究所(10時)
3/14	日	363	春を見つけよう 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
4/25	日	364	カタクリの里歩き 無地内・廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
5/16	日	365	夏の渡り鳥 春の収穫祭 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
6/13	日	366	新緑の森 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
7/18	日	367	夏の花と虫 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
8/22	日	368	水生生物と川歩き 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
9/19	日	369	木の実と秋の花 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
10/17	日	370	落葉とキノコ 秋の収穫祭 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
11/7	日	371	冬の渡り鳥 錦秋湖周辺(9時:湯夢プラザ)
12/5	日	372	初冬の森 廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)

- カタクリの会は西和賀町での自然観察会を目的とした会です。
- 誰でも自由に参加できますが、各観察会の1ヶ月前から電話でのみ受付です。参加費は500円
- カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で送付します。(郵便振込みをご利用ください: 02350-5-38765 加人者名: カタクリの会)
- 連絡先: 〒029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15 電話&FAX0197(82)3601 email:tsuyosi.segawa1954@gmail.com 代表:瀬川強

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第115号 2020年12月発行  
 編集・発行：高山の原生林を守る会 HP:<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>  
 代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時~9時)  
 郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」  
 入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで  
 編集：佐藤・奥田